

竹村ほまれ 後援会だより

2017/02/7 No023

後援会責任者 林高文 83-0341

竹村ほまれ連絡先

携帯：090-6545-2254

HP：FB・ブログ：

竹村ほまれと入力し検索を

今年もよろしくお願ひします

二〇一七年の新年がスタートしました。今年こそは希望あふれる良い一年になるよう願わずにはいられません。昨年未閉会した国会は、年金カット法やカジノ解禁法など、重要な法律が次々と強行成立する異常事態でした。「低い年金を、さらに引き下げて将来世代にひきわたすのか」また「カジノ法は国民をギャンブル浸けにして、経済再建と言えるのか」と不安や怒りの声が多く、多くの国民からあがっています。

新しい年にあたって、本市に於いても憲法の理念が活かされる社会が存続するよう、更に議会でも力を尽くす所存です。

二〇一七年 二月

市議会議員 竹村ほまれ

「竹村ほまれ」の12月議会一般質問要旨

〇くらし破壊の社会保障削減路線を問う

〇3か年計画で見直しとされる9事業の縮小

廃止の根拠は

竹村ほまれ議員の質問

介護、医療、年金等後退する社会保障の対応は

国の社会保障の削減路線により、介護サービス費の自己負担上限額の引き上げ、高額医療費制度の縮小、年金の上限のない引き下げ等、国により押し進められている事態を、本市とどう向き合い対応するか。

杉本市長の答弁

国の動向に注視

政府は消費税増税の再延期で低所得者への支援が実現しないまま社会保障費の抑制と財源の確保を目指している。

本市の生活弱者や低所得者に繋がることの無い様、国の動向を注視している。

竹村ほまれ議員の質問

全事業見直し

財政の健全化を進めるため、3か年実施計画で、扶助費等9事業の縮小廃止を含む見直し提案されているが、財源ねん出額等の期待をどのように考えているのか。

杉本市長の答弁

意を決して事業見直し

厳しい財政状況の中で意を決して事業見直しを進めていかななくてはならない。平成29年度財源として5000万円を確保したい。

竹村ほまれ議員の質問

在宅介護に

冷たい見直し

寝たきり高齢者等家庭介護慰労金事業は、困難を抱える在宅介護する家庭を支援する血の通った制度



継続は力・・・と毎月恒例のスタンディング

であるのに、縮小廃止は在宅介護化が勧められる中で、施策に逆行する冷たい見直しだ。何故か。

杉本市長の答弁

介護保険や障がい者総合支援法の法整備がなされ各種サービスが充実してきた。介護保険の施行や、近年は通所訪問、泊りサービスも充実してきている。他市の状況も参考にし、支給基準支給金額等見直しの対象とした。

竹村ほまれ議員

家庭での介護は、傍で見ているより大変で長期にわたって24時間介護することは並みの主婦はない。総合支援法がまだ課題を残し、行き届かない中で、血の通った事業の維持を図って頂きたい。

→裏面に続く

竹村ほまれ議員の質問

24時間健康相談

24時間健康相談ダイヤル事業は、利用実態や昭和病院の負担軽減に繋がらない等として、打ち切り計画がされているが、緊急を要する時などのお助けダイヤルとして利用されている実態からみても継続が求めらるべきとの見直しを根拠はないか。

市長の答弁

相談実態や効果を勘案

不要な救急出動要請や「コンビニ受信の解消、自殺防止、在宅介護、出産育児の支援を事業目的としたが、現在は長野県や昭和伊南病院でも相談をやっており、メンタルヘルス相談も全体で16.9%といった状況。実態や効果を勘案し再検討する。

竹村ほまれ議員の質問

市場閉鎖も視野に

市場会計の繰出し事業は、取扱量の減少による市場閉鎖も視野に判断しているところがあるが、食育の観点からも学校給食対応、生産者対応はどのようになっているか。

市長の答弁

取扱量の減少傾向

協議検討していく

取扱高が10年前93000万円。昨年度末は65000万円と減少傾向。市場の利用促進と地産地消推進の面から学校給食への食材提供をしており、安全安心な給食食材の提供に役割を果たしている。今後厳しい現象が続けば、市場の動向を協議し検討していく。

竹村ほまれ議員の質問

まちなか賑わい・

統廃合

まちなか賑わいイベントの統廃合が掲げられているが、具体化、構想はされているのか。今後どのように推進されるのか。

杉本市長の答弁

賑わいに繋がっていない

まちなかワークショップにおいては継続的な賑わいに繋がっていないことや、地元商店の負担が増えている。イベント補助の見直しを考える時期だと感じている。



鬼はそと
福はこよう

竹村ほまれ議員の質問

クリーンピア駒見中止は

農業集落排水汚泥処理施設「クリーンピア駒見」の休止も計画されている。

肥料として農地還元し、資源循環に貢献してきた施設である訳だが、汚泥処理業務の今後と、施設跡地はどのように活用しているか。

杉本市長の答弁

施設の後利用、地元と協議

汚泥搬入量の伸び悩み、施設の修繕費や燃料費の高騰等から、平成30年度から休止又は廃止に回すの案のあり方について検討している。施設の後利用に関しては、地元と協議を進めたい。

竹村ほまれ議員の質問

生ゴミ事業の各種見直し

生ゴミたい肥化集中処理事業と、大型生ゴミ処理機実証実験の見直しを取り上げられている。

一般家庭分生ゴミの堆肥化の取り扱い休止や、利用率が高くない処理機の統廃合も見直しとされるが、ゴミを減らしているかどうか観点から生ゴミ減量化をどう考えているか。

杉本市長の答弁

生ゴミを分別処理することはゴミの減少に繋がっている事から、持続可能な循環型社会の構築には必要と認識している。事業内容を精査し今後の方向性を改めて検討する。新ごみ中間処理施設稼働に伴ないごみ量の増加が懸念されるが、引き続き分別資源化の徹底等でゴミの減量資源化を図っていく。

中沢バイパス開通・

☆桜や花桃、いびし咲く中沢へ

駒ヶ根長谷線 中沢バイパスの開通式典が29日に行われ、3期工区の新道が供用開始されました。平成7年度に1期工区が開始され、2期工区、3期工区と延長を果し22年をかけて完成の運びとなり多くの関係者、区民が新道の完成を祝いました。



安全で快適な交通環境を願って計画された道路ですので、地元の皆様はもとより、多くの人がこの道を安全運転で通って頂き、風光明媚で素敵な中沢を発見して頂けたら、と願っています。